

## 令和4年度 第3回がまごおり協働まちづくり会議議事要旨

日 時 令和4年12月12日(月) 午前10時～  
蒲都市役所 北棟集会室

### 1 開会

事務局より、配布資料の確認  
会長より、第2回議事録の承認

### 2 議題

#### (1) まちづくり活動助成金事業について

事務局より、市民企画公募まちづくり事業助成金及びまちづくり活動チャレンジ助成金に係る令和4年度採択状況・令和5年度募集予定・賀詞交歓会開催予定について説明

- ・事業の成果について、実際やってみてどうだったのか、できなかったことなどをドキュメントとしてまとめ、今後活かすことについてはどのように考えているか。  
また、報告会などの参加者が限られたところではなく、もっとオープンにした方がよいのではないか。
- ・助成金事業団体の実績報告会や賀詞交歓会などで、活動の報告や他団体等との意見交換を行っており、コロナ禍で近年は限られた場になってしまっているが、状況を見て変えていけるとよい。
- ・活動内容や成果などのオープンの仕方は工夫し考えた方がよい。
- ・鹿島なかよし会の活動報告はデータとしてまとめているので、使ってもらえる。  
活動で収穫したさつま芋は、参加された方などに配り、さらに余った分について、こども食堂に寄付させていただき、有効に活用できた。
- ・中央ファームは2年目になり、活動報告を作るなど活動を続けていく中で会員が増えている。成果をどこかで発信できるとよい。  
学校との関係は良好で、子ども達は、大根が日当たりによって出来が違うことなどを体験から学んでいる。
- ・はじめの一步で活躍している人には、社会福祉協議会や学校関係者から声がかかるなど、動きが出てきているので、何か仕掛けづくりの必要性を感じている。
- ・チャレンジ助成金では、新しい分野の活動が出てきているが、はじめの一步の前段階のチャレンジ的取組みであり、世間に活動を広められるには3年くらい必要かなと感じている。
- ・行政は、発信することがあまり得意ではない。委員の中にも発信が上手な方々があり、そういうところから広がりを作っていけるとよい。
- ・活動の成果に注目し過ぎず、見守る姿勢が出てきたことは嬉しいと感じている。
- ・うまくいかなかったことを次に活かすことが成果になる。やりっぱなしではなく、次に活かせるようにしたい。

- ・学校や地域での活動など、校区を回って話をしてもらうことも良いのではないか。
- ・協働において大事なことは、つながっていくことだと思うが、つながっていないと感じている。  
発信も大事だが、興味を向かせることも大事ではないか。また、助成金応募団体を待つばかりでなく、思いがあるところに直接アプローチすることも必要ではないか。
- ・チャレンジ助成金の動きのような市民活動第2世代の動きについては、愛知県全体でも課題が多いようだ。
- ・まちづくりでは、市民側の動き、パワーが大事で、現に色々なプロジェクトが動いているが、なかなか連携が生まれにくい。それぞれのミッションの中で難しい部分もあるが、蒲郡でのプロジェクトを共有する場面や意見交換など交わる場が必要だと感じている。
- ・生涯学習課の成果発表会に参加したが、お客さんが少ない。若い世代がエネルギーを持って取り組んでいるのに、もったいないと感じた。
- ・総代連合会でも地域の活動を発表する機会を作っているが、場の機会を捉えて情報提供することが大事だと感じている。
- ・秋など、イベントが重なる時期があり、いい意味では参加者が分散しているが、参加者が集中する場とそうでない場ができているかもしれない。  
イベントなどがもう少し重ならないように見える化することも必要。

## (2) 協働モデル事業について

事務局より、協働モデル事業に係る令和4年度実施状況・令和5年度事業予定について説明

- ・感性工学プロジェクトでは、蒲郡のお土産について統一したパッケージがあると面白いと思っている。  
パッケージデザインに協力してくれている学生はデザイン専門ではないが、予想以上に出来が良い。
- ・映像制作プロジェクトは、去年は企業、今年は市民団体と、活動のコンセプトが違い、大学側も学びながら協働を進めている。
- ・福祉と工学の実践プロジェクトでは、施設側と大学が研究していることとの乖離について、コミュニケーションを取りながら認識合わせをしていく必要がある。
- ・大学とのモデル事業は、大学の授業としては良くては協働相手はどうだったのか、まちづくりとしてどうなのか、そういったことを振り返り、オープンにしていくことが必要ではないか。
- ・大学が地域との接点をどう作ったらいいのかについて、先生達がどこまで考えることができているか、という点も検討する必要がある。
- ・若者議会について、行政メンター派遣は若者の政策を担当課につなげてもらえ、良いと感じている。  
活動を通して、議員の成長は見えるが、その後、どのようにまちに反映されているかは分かりにくく、そこを検討していくことが活動の継続にもつながると感じている。

- ・第1期蒲郡若者議会修了生が活動しているGammaホームに関わっているが、活動的な人が多いと感じており、もっと広く知ってもらえれば可能性が広がっていくのではないかと感じる。
- ・若者議会が単年度で途切れてしまうのではなく、修了生が引き続き活動に関わっていくことも必要だと感じている。
- ・福祉分野における地域や活動との接点については転換期にある。
- ・地域における多文化共生事業については、背景となる部分や目的などが資料としてあるとよい。高浜市では空き店舗を使って多文化のコミュニティセンターを作って進めており、今後もっと掘り下げていけるとよい。

### (3) 指針の推進について

事務局より、10月に策定された指針の推進について説明

- ・指針の推進においては、各課題に関わる多様な主体で課題を検討し、つながりを作っていくことが必要になる。
- ・行政職員の役割も一定程度必要になってくるため、職員の理解を深めていくことも求められる。
- ・子どもたちに伝えていくことも何年後かにつなげていくためには必要ではないか。
- ・指針の周知については、ぱっと見て分かるようなパネルを作成し展示することや、短い動画仕立てにすることなどもよい。
- ・指針の改定を機会と捉え、できることはできるだけやってみることが大事。

### (4) 委員の改選について

事務局より、次年度の委員改選について説明

## 3 その他

次回開催時期について

第4回は令和5年2月20日（月）午前10時からの開催を予定